

しわネット

2005
Jun
6月

ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>



No.673

子どもたちへの想い

名誉町民―異聖歌生誕百年記念特集



- 介護お助けマップを作成……11ページ
- 片寄に林野火災……12ページ
- 町制施行50周年記念事業のお知らせ……14ページ
- ペットも家族
- 「愛犬手帳」を作りました……15ページ



山を愛する心を傷つけた 火災への怒り

町長からのメッセージ

当町は「循環型まちづくり条例」を掲げ、その中で二酸化炭素排出の抑制における山林・里山管理の大切さも施策に生かしながら進めたきたところであります。しかし、五月六日の片寄地区に発生した林野火災は二五ヘクタールを焼失する結果となりました。未だ記憶に新しい平成九年五月二日に三〇六ヘクタール焼失した現場と同じ場所



所で発生したことは、耐え難い怒りと、我が身が火傷した痛みでいっぱい思いであります。一人の不心得者により、山を愛する多くの人の心が傷つけられました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます、また、消火活動にご協力いただいた関係機関約千人の方々には、この場を借りてお礼申し上げます。町としては、早急に復旧対策に取り組み、町単独の事業と県・林野庁に要望すべきことを関係機関と協調しながら被災者救済に全力で当たるべく努力してまいります。

前回の火災後の植林から七年が経ち、下草刈りにも手がかからず、今年から除伐に入ろうとしていた矢先の災害で、被災者の方のみならず、植林などに関わった皆様の心境は複雑な思いとなるのも当然であります。今後は今回の火災を重く受け止め、入山に対する規制などについて協議を進め、再発防止を図つてまいります。

循環型まちづくりで山林の果たす役割は偉大なものです。それを損失した今回の火災でしたが、早期の復旧に向けて努力してまいります。

藤原 孝

くつろぎのスペースを みんなで作ろう

紫波中央駅前公共施設建設予定地を建設までの期間、町民の皆さんに開放します。皆さんがつくるコミュニティの場として活用しましょう。

くつろぎのひろば、にぎやかなガーデンング、静かないこの森、バザーや日曜日など自由に広いスペースをデザインしてみませんか？「子ども会で野菜作り体験農場に使いたい」「近所同士でハーブの栽培をしたい」「老人クラブで庭を造り、集まりの場にしたい」などの利用も可能です。

◎みんなの森ワイワイショップ

皆さんのアイディアや夢を自由に話し合うワークショップ「みんなの森ワイワイショップ」を開催します。ワイワイとビジョンづくりをしてみましょう。

とき 7月10日(日)

午前10時～午後4時

(出入り自由です)

ところ サン・ビレッジ紫波

小学生以上どなたでも参加できます。

問合せ 総務課 協働支援室

☎672-2111 内3142

FAX672-2311

町制施行50周年記念イベント 温泉保養公園の植樹

ききょう荘となり新しく整備した公園に、ソメイヨシノやヤマモミジ、そして町の木ケヤキを植樹します。家族やグループ誘いあわせて思い出に残る植樹をしましょう。もちろん一人での参加も歓迎します。軍手・長靴をご持参ください。

日時 6月25日(土) 午前10時 雨天決行

場所 ききょう荘駐車場集合

募集人数 50人

申込・問合せ 農林課あてに電話、ファクシミリ、Eメールで代表者名・住所・電話番号・参加人数をお知らせください。

☎672-2111 内線3332

FAX 672-2311

Eメール info@town.shiwa.iwate.jp

参加者に
ききょう荘入浴券
プレゼント

デジカメ 探検隊



●今月のタイトル
「雨の雲にあたるはな」
表紙左下の写真は、小学生が環境探検隊で撮影したものです。

紫波町が生んだ童謡詩人

巽聖歌

たつみ せい か



子どもたちへの想い

六十八年の生涯の中で、多くの童謡、詩、短歌を残した巽聖歌。その中でも、いちだんと光彩を放つのが子どもが登場する作品群です。子どもたちをこよなく愛し、たくさんの子ども向けの作品を書きながら、児童文学運動に取り組んだ聖歌を紹介します。

『赤い鳥』との出会い

大正十四年、童謡と童謡の児童誌『赤い鳥』に、詩「水口」を、巽聖歌のペンネームで発表。北原白秋に激賞されました。文学と出会ったのが『赤い鳥』ということもあって、聖歌は子ども向けの作品づくりになやみならぬ意欲を見せます。昭和三年上京、昭和六年には初めての童謡詩集『雪と驢馬』を刊行。十二年には与田準一らと「幼年文芸サークル」を結成しました。

岩手での文化活動

巽聖歌は、戦争が激しくなった昭和十九年、沼宮内(岩手町)に疎開します。一切の戦時統制が解除になった昭和二十一年、聖歌は再び文化活動を始めました。用紙の調達や印刷もままならない時代に、聖歌は『短歌と詩、新樹』という文学雑誌を刊行し、六月には「岩手児童文化協会」を結成して、自らその事務局長を引き受け、「ごごもんぶん」を創刊しました。

児童文学活動へ貢献

「ごごもんぶん」に始まった児童文化運動は、昭和二十一年に「児童文学者協会」の設立へと繋がっていきます。これが後に『季刊児童文化』の復刊となり、『日本児童文学』の刊行へと発展していきます。昭和四十七年、聖歌は日本児童文学者協会名誉会員となりました。

巽聖歌(たつみせい) 1905～1973

童謡「たぎび」の作詞者。「水口」をはじめとする時に優れた作品を残す。童謡集『春の神さま』で第二回児童文化賞受賞。「こんぎつね」を代表作とする童謡作家・新美南吉を見いだし、全作品の刊行に尽力したことで有名。創作のほかに、児童教育にも情熱を注いだ。

詩作の源流、 心のふるさとと紫波町

苦しかった生活

異聖歌（本名 野村七蔵）は、明治三十八年二月十二日に生まれました。聖歌の誕生の四カ月前に、農具の鍛冶をしていた父市兵衛が亡くなってしまいました。

父親を亡くした一家は、日露戦争で負傷して帰った長男の吉蔵が養わなければならなくなりました。吉蔵は鍛冶屋とともに、鶏や豚を飼いましたが、生活は相当苦しかったようです。兄弟の歳が離れていたため、実際に聖歌と一緒に暮らしたのは、すぐ上の姉のフジだけでした。

聖歌は姉のフジと一緒に日詰日本キリスト教会の日曜学校に通い、後にプロテストメントの洗礼を受けています。

優秀ながらも進学を断念

聖歌は小さいころから優秀で、綴り方（作文）を製本して友だちと回し読みをしていました。また、暗算が早く、正

確なので、まわりは聖歌のことを「暗算坊」と呼んでいました。お金がなく紙が買えなかったのか、よく土間に字を書いていたそうです。

「こんなに頭がいいのだから、上級の学校に進ませた方がいい」という周囲の意見もありましたが、それは家庭の経済事情から許されませんでした。

上の学校に進めなくとも、聖歌は手ランプを点けて、本を読んだり、文を書いたりしていました。でも、それも「油がもつたない。火事になる」ととがめられることがしばしばでした。

就職でふるさとを離れた聖歌が、日詰に戻ったのは、徴兵検査を受けるためでした。しかし、病弱だったために兵役にはとられませんでした。そこで聖歌は、日詰小学校時代の校長が店長をしていた、盛岡銀行（岩手銀行の前身）の日詰支店に一時勤めることになりました。その場所は現在の鈴勝魚店のところでした。



紫波運動公園内にある「水口」の詩碑。
ここでは毎年碑前祭が開催されています



日話教会の日曜学校の記念写真。
最上段左から2人目。

白秋が日話の実家を訪問

二十歳のころ、『赤い鳥』に掲載された詩「水口」で、聖歌を認められたのが北原白秋です。異聖歌はその北原白秋に師事しました。そして昭和三年、白秋のすすめにより上京し、以後積極的に創作活動を行います。

昭和十五年、長い闘病生活を終えた後、弟子たちと東北旅行をしていた北原白秋は、中尊寺を詣でたあとに花巻温泉に一泊しました。北原白秋たちは、このあと日話にある異聖歌の家も訪ねています。

ハイヤーで聖歌の家に降り立った白秋は、その足で料亭「かんからや」に向かい、そこで聖歌の友人らと会いました。病み上がりの不自由な体をおして自分の故郷を訪ね、母親に語りかけてくれた北原白秋に、聖歌は目に涙をため、声をふるわせながら謝辞を述べたといいます。

たびたび帰省

疎開で岩手に戻った聖歌は、県内でも積極的に文化活動を行いました。昭和二十三年、家族と再び上京し、東京の日野町（現日野市）に暮らすことになりました。

このあと、児童文芸誌の『白象（はくしょう）』を創刊、中央文壇で活躍します。また、評論集の『今日の児童詩』、『小学生の詩の作り方』なども刊行し



昭和15年、北原白秋が弟子たちと東北旅行したときの一枚。杖を持っているのが白秋で、その隣が夫人の菊子。真ん中に立っているのが聖歌。

て、戦後の児童文学復興に心血を注ぎ、昭和二十七年には「日本作文の会」の結成に加わります。児童詩教育にも貢献しました。

聖歌は東京に住んでいても、折に触れて日話に帰省し、親類や友人たちと旧交を温めました。聖歌は昭和四十八年に六十八歳で死去。五十三年に紫波町の名誉町民となりました。



聖歌は折に触れて日話に帰省しました。

「たきび」のふるさとに 童謡の輪を

〜異聖歌を顕彰するさまざまな行事〜

異聖歌の足跡

多くの童謡の作者、そして詩人として活躍した異聖歌は、日本の児童文学、児童詩教育の発展に影響を与えてきました。紫波町からはじまった異聖歌の生涯を、ほんの少しひろってみました。

碑前祭

異聖歌の命日である四月二十四日には、紫波短歌会が中心となり、総合運動公園内にある水口碑に花と歌を捧げ供養をしています。

今年も聖歌の詩の朗読や、歌唱などが行われ、集まった五十人ほどが異聖歌を偲んでいました。

また、東京で暮らしていた聖歌が、お酒で気分が良くなると、よくふるさとを懐しんで踊ったという「竹の子舞」が南日詰太神楽の皆さんによって披露されました。丸めた御座を竹の子に見立てた踊りはユーモアがあり、見ている人たちの笑いを誘っていました。南日詰太神楽で使用している手平鉦は、実家が鍛冶屋であった聖歌の甥にあたる方から贈られたものです。

その後、宮沢賢治・異聖歌研究家小川達雄さんによる講演会が体育館の会議室で行われました。小川さんは異聖歌と親交が深く、弟子のような関係で、聖歌が人の詩を評論するときの視

点などを細かく記憶しており、詩人としての内面を詳しく紹介してくれました。



聖歌がふるさとを懐しんで踊ったという「竹の子舞」



小川達雄氏による講演会

1905 (明治38)

2月12日、紫波郡日詰町日詰(西裏)で誕生。本名は野村七蔵。父市兵衛、母トメの四男(七人兄弟の末っ子)として生まれた。

1917 (大正6) 12歳

市兵衛は農具の鍛冶屋を営んでいたが、前年の10月に死去した。日詰尋常小学校卒業。

1921 (大正10) 16歳

謄写版刷りの雑誌『豚の髭』を日詰で発行。花巻在住の友人平野直の『赤い花』と交換する。

1923 (大正12) 18歳

すぐ上の姉フジと日詰日本キリスト教会へ通う。

1924 (大正13) 19歳

横須賀にいた平野直の世話で海軍工廠会計部に就職。

1925 (大正14) 20歳

時事新報社に入社。雑誌『少年』『少女』の編集記者となる。

1925 (大正14) 20歳

両誌に童話「山羊と善兵衛さんの死」など童話や詩を発表する。時事新報社をやめて帰郷。盛岡銀行(右手銀行の前身)日詰支店に就職。このころ、日詰教会で洗礼を受ける。

1928 (昭和3) 23歳

『赤い鳥』十月号に童謡「水口」「家垣根路で」が異聖歌の名で載る。「水口」が選者北原白秋に激賞される。

1928 (昭和3) 23歳

北原白秋によって選ばれた『赤い鳥』の投稿家たちが童謡研究グループ「赤い鳥童謡会」を結成。白秋のすすめに従い上京。

1929 (昭和4) 24歳

白秋の弟が社長をしていた出版社アルスの社員募集に応募。成績優秀にて採用される。

1930 (昭和5) 25歳

与田準一、異聖歌の下宿に同居。『赤い鳥』系の詩人たちと同人誌『乳樹』(後に『チチノキ』)を創刊。

1930 (昭和5) 25歳

与田準一、異聖歌の下宿に同居。『赤い鳥』系の詩人たちと同人誌『乳樹』(後に『チチノキ』)を創刊。

1930 (昭和5) 25歳

与田準一、異聖歌の下宿に同居。『赤い鳥』系の詩人たちと同人誌『乳樹』(後に『チチノキ』)を創刊。

異聖歌童謡まつり

(町制五十周年記念事業)

童謡まつりでは、日詰小学校の四年生が地元の先人である異聖歌について、子どもたちの視点でその生い立ち、生き方、作品などを調べ学習発表します。聖歌の詩心に触れることで豊かな情操を育むことを目的として毎年取り組んでいるものです。子どもたちの澄んだ歌声と紫波童謡の会の皆さんによるなつかしい唱歌も楽しみです。

また、聖歌が暮らした東京日野市の市立ふるさと博物館学芸員北村澄江さんによる「たきびの詩人異聖歌の生涯と仕事」と題した講演会も行われます。

とき 六月二十六日(日)午前九時〜
ところ サン・ビレッジ紫波
入場無料

いわて童謡唱歌 紫波のつどい

(町制五十周年記念協賛事業)

県内の童謡唱歌を愛好する団体が童謡「たきび」のふるさとに一堂に会して、歌を通じて心の交流をします。遠くは釜石市や二戸市などから二十団体が参加の予定で、童謡を愛する人たちが、地域に根ざした唱歌やわらべ歌を歌います。忘れていたなつかしい思い出の歌に出会えるかもしれません。お誘い合わせでお出かけください。



昨年の「童謡まつり」での学習発表の様子

参加団体市町村

花巻市・北上市・水沢市・遠野市・釜石市・二戸市・矢巾町・石鳥谷町・雫石町・岩手町・胆沢町・大槌町・金ヶ崎町・軽米町・沢内村・紫波町

とき 七月三日(日)

午後0時三十分開演

ところ 矢巾町田園ホール

入場料 四百円(日詰公民館で販売中)

童謡まつり・童謡のつどいの問合せ

日詰公民館 ☎671-1642

有線01-8942

1931(昭和6) 26歳

処女童謡詩集『雪と驢馬』を刊行。師匠北原白秋が序文を書く。

※日本の子どもの本百選(戦前編)。

1932(昭和7) 27歳

18歳で新美南吉が聖歌を頼って上京。以後、南吉を支援する。長野県出身の武居千春と結婚。翌年、長男誕生。白秋に「ひひこ」と命名してもらう。

1937(昭和12) 32歳

与田準一・武内俊子らと「幼年文芸サークル」を結成。

1940(昭和15) 35歳

短歌会に白秋と同行、東北各地を回り、日詰の自宅に白秋とともに立ち寄る。

『春の神さま』刊行。第2回児童文化賞受賞。

1941(昭和16) 36歳

「たき火」や「せみを鳴かせて」を作詞。

1943(昭和18) 38歳

新美南吉没。未発表原稿が聖歌に届けられる。

1944(昭和19) 39歳

現岩手町に疎開。満洲を旅する。

1946(昭和21) 41歳

岩手児童文化協会発会。『新児童文化』復刊。

1948(昭和23) 43歳

十月、聖歌は再び上京し現日野市に住む。次々に童謡や論文を発表、中央文壇で活動する。

1949(昭和24) 44歳

『白象』創刊。このころから国語教師たちに招かれる。

1971(昭和46) 66歳

『赤い鳥文学賞』選考委員を委嘱される。

1972(昭和47) 67歳

日本児童文学者協会名誉会員に推される。

1973(昭和48) 68歳

日野市立病院で死去。八王子喜福寺に埋葬される。

1978(昭和53)

紫波町の名誉町民となる。

1993(平成5)

夫人の野村千春氏、聖歌の旧蔵資料を大阪府立国際児童文学館に寄贈。

※今年同館で小展示「異聖歌生誕百年」展開催中(5月6月27日まで)。日野市と半田市(新美南吉記念館)でも企画展を予定。



子どもたちを想い つくられた校歌



異聖歌は生前、

町内の学校をはじめとして

たくさんの方の校歌をつくっています。

卒業生のみならず、

覚えていますか。

ふるさと紫波町の子どもたちのために、

異聖歌が作詞した校歌を

ご紹介します。

校歌
「日ほのぼる」
作曲 平岡照章
(昭和32年制定)

一、日ほのぼる

日ほのぼる

早池峰山の東から

小学校のこの丘を

照らして朝の

日ほのぼる



紫波第一中学校校歌

「大空に風はかがやき」

作曲 平岡照章
(昭和32年制定)

一、大空に風はかがやき

ひろびろし紫波町

われらはここに育ち

ここに学ぶ

紫波一中 紫波一中

文化よ興れ潮をなして

二、蒼雲に山は抜き立ち

うるわしき紫波町

われらはここに学び

ここに鍛う

紫波一中 紫波一中

健康つねに 心を正す

三、北上の古き流れも

若々し紫波町

われらはここに鍛え

ここに築く

紫波一中 紫波一中

世界に香れ 勤労と共に

日詰小学校校歌

「日はのぼる」

作



他にもこんな学校の校歌をつくっています。
まだまだありますので、
インターネットで探してみたいかがですか。

花巻市立湯口小学校

<http://www.city.hanamaki.iwate.jp/yugutish/>

日野市立日野第四小学校

<http://www.city.hino.tokyo.jp/school/hino4e/>

世田谷区立用賀小学校

<http://www.setagaya.ed.jp/yoga/>

板橋区立板橋第八小学校

<http://www.ecopolis.city.itabashi.tokyo.jp/edu/ita8es/index.htm>

横浜市立生麦小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>

二、日はのぼる

日はのぼる

暑さ寒さに負けないで
勉強できるわたし達

照らして朝の

日はのぼる

三、日はのぼる

日はのぼる

世界にかおる花の虹

いなく日詰のわたし達

照らして朝の

日はのぼる



赤石小学校校歌

「風は緑に」

作曲 林 光
(昭和30年制定)

一、風は緑に 匂やけく
空またかがやく わが郷土

おお 郷土

北上平野の ただ中の

赤石われら 小学生

学ばむ 常に新しく

二、窓をひらけば 早池峰と
見渡して

東根左右に 郷土

うるわしき

山またはるけく

赤石われら

小学生
常にこのからだ

きたえむ

三、北上川の 水清く
川の波

むらさき 顕ちくる

おお 郷土

そのもとの

紫波の名に負う 小学生

赤石われら 小学生

誇らむ 常にその誠

地球環境を守るため、身近な生活の中でさまざまな活動を行っている皆さんがいます。シリーズ「環のくに紫波」では、そんな皆さんの活動を紹介していきます。紫波の美しい自然、住みよい環境を守る活動の環を広げていきましょう。

自然を大切に作る心と野球への夢を育む活動 北日本アオダモ育成の会

野球のバット材料として知られるアオダモの植樹活動に取り組んでいるアオダモ育成の会は、良質のアオダモが育つ気候条件とされる、霧が多く発生し寒さの厳しい山屋の峠地区に用地を借りて、平成十二年に活動をスタートさせました。

植樹は、毎年五月五日のこの日にスポーツ少年団や中学の野球部、野球愛好者、賛同者が六十人ほど参加して実施されています。用材となるまで八十年近くかかり、自生している地域も少ないため、このままでは資源として枯渇することが心配されているため、野球関係者の植樹活動も全国的に広がってきました。

育成の会事務局の原修さん（口語）は、山の地ごしらえから植樹後の下草刈り作業を一人でこなしています。原さんは、「登山道の整地や草刈りの経験があったので何とかやってみようと思った。山屋の人たちにはたくさんの方を教えてくださいたい」と感謝していました。

一年に二千本の植樹を続けているので、管理する面積も二五〇アールを超え、作業量も増えてきました。「おもしろいと思うてやるから継続できる。」

それが仕事だったら続かなかったでしょう」とふり返りました。

これからも二年ぐらいは植樹を続け、およそ二万二千本（面積四〇〇アール）まで増やしていく予定です。「アオダモは、ブナと同じように保水力があり水資源の確保にも役立つし、きれいな川を保つ役割も担ってくれる」と環境保全への思いも語ってくれました。

「北日本アオダモ育成の会」の連絡先
☎676-3168（原スポーツ内）



昨年から植樹の会場となっている佐比内の僧ヶ沢国有林でアオダモの苗木を植える参加者

介護保険 よもやま話

介護保険室 ☎672-4522

町では「介護お助けマップ」を作成しました。行政区長を通じて
全世帯に一部お届けしておりますが、ご覧いただけましたで
しょうか。

今回は「介護お助けマップ」の内容について
紹介いたします。



元気に、住み慣れた場所で生活することは私たちの一番の願いです。体の不自由な人でもちよつとした手助けで、快適に生活できることはたくさんあります。

お手元の「介護お助けマップ」は、介護保険にかかわらず、お問い合わせの多いサービスをピックアップして掲載しております。

目に付く所に掲示し、困った時の道しるべとしてご利用ください。



マップの特徴は次の2点です。

1. 相談窓口を明示
2. 「困った時のサービス！」をわかりやすく紹介

自分の事・家族の事で不安があるときは、一人で悩まず、相談してください

相談窓口

- ★在宅介護支援センター
 - 紫波町在宅介護支援センター
671-1101
 - にいやま荘在宅介護支援センター
676-5777
 - 百寿の郷在宅介護支援センター
671-7050
- ★長寿健康課(保健センター内)
672-4522



焼失面積25.1ha 5/6

林野火災が発生し、片寄地内山林を中心に約二五ヘクタールにわたって被害をうけました。火災の発生は六日午後三時に高速道路紫波サービスエリアから紫波消防署へ一報が入り、折からの強風にあおられ、石鳥谷町で発生した火はみるみる北へ飛び火しました。町では片寄地区林野火災災害対策本部を設置、消防署、消防団、そして県の防災ヘリや自衛隊が協力して消火にあたりました。現場が八年前の大規模山林火事現場とほぼ同じとあって、多くの人はその時の記憶がよみがえったことでしょう。懸命の消火活動と深夜から降りだした雨により、前回よりは被害が小さかったものの、復旧のために多くの

皆さんが努力して緑化を進めてきただけに、残念なことになりました。

この火災に際しまして現場本部として隠里寺敷地をはじめ消火作業へのご協力、また多くの支援物資の提供をいただきました。ありがとうございました。

※平成九年の山林火災
五月二日、石鳥谷町大瀬川地区より出火。鎮火宣言まで六日間にわたって消火、警戒活動が続く。片寄地区民九世帯四十一人が片寄小学校に避難。被害面積は石鳥谷町と合わせて三〇四ヘクタール、町内の森林一六八ヘクタールを消失。

2005 まちのわだい



5/2

水分小学校 鼓笛パレードで交通安全

水分小学校の交通安全少年団は、春の交通安全週間の活動として、児童や地域の交通安全意識が高まるようにパレードを行いました。赤い衣装の鼓笛隊、その後にピアノ力隊、旗をもった低学年の児童たち、そして保護者や交通安全母の会のみなさんが続きました。学校からJA水分支所方面に向かい、途中水分児童館の園庭で園児たちへも交通安全を呼びかけ、農協前では交通安全体験発表や交通安全宣言などを行いました。

泥んこが大好き？はだしの田植え

5/18



小雨混じりの空模様の中、日詰小学校の五年生七十八人が、農作業体験として田植えをしました。日詰地区は住宅が増え、水田はだいぶ減りましたが、朝日田内の五アール（赤澤洋幸さん所有）を借りて、うるち米を手植えします。はじめに指導して下さる吉田定吉さんから

「暮盤の目状に形引きしてあります」と植える深さをしっかり教えてもらいました。今は機械化され、はだしで田に入ることはほとんどありませんが、今日は昔の田植えを経験してみるために、子どもたちははだしになります。ズックを脱ぎ、苗を持ち、あげに並んで大きな歓声を上げながら田に入っていました。ぬるぬるして気持ち悪いと言いな



ながらも笑顔で泥の感触を味わい、先生から「はい、上がって」と号令がかかっても、なかなか泥から抜け出たかない様子でした。三十分ほどで子どもたちの田植えは終わりましたが、その後、地域の皆さんが、丁寧に植え直し作業してくれました。秋には立派な稲穂が実り、収穫したお米を調理していただくのが楽しみです。



5/21~23

紫波フルーツパーク 「紫あ波せ本舗」 好評一周年

駅前産直として親しまれている「紫あ波せ本舗」が開店一周年を記念して、イベントを開催しました。町の工芸品や紫あ波せ弁当などの販売にあわせて、町のそば粉を使った乾麺「胡堂のそば」の試食販売も行なわれました。晴天に恵まれた日曜日のもちまきが始まるころには、駅前の歩道からあふれるほどの人が集まり、もちの中に入っているクジでいたけなどが当たるお楽しみもありました。



町誕生50年! 100年へ向けステップアップ

～町制施行五十周年記念行事のご案内～

イベント開催日 6月26日(日) サン・ビレッジ紫波

紫波町は昭和30年4月1日に誕生してから今年50年の節目を迎えます。町では多くの皆さんとともに記念イベントを行います。ご家族そろって、またお友達とお誘い合わせの上ご参加ください。国際交流相手のオーストラリアスタンソープ市長、直木賞作家高橋克彦さん、そしてフォーラムに出演の皆さんなど町外からのお客様とも懇親を深める機会です。入場はフリーですが、食の彩典はチケット(¥3,000)をお買い求めいただきます。

☆異聖歌童謡まつり 午前9時～12時15分
※7ページに詳しい内容を掲載しています

☆記念式典 午後1時～3時15分
町勢功労者の表彰ほか

☆遊戯 午後3時15分
古館保育所児童30人によるかわいらしい踊りをご覧ください。

☆記念フォーラム(パネルディスカッション)
午後3時30分～5時30分

ひとり一人の「しあわせ」のために
—紫波の未来は農ある暮らしから—

パネラー 増田寛也さん(岩手県知事)
野崎洋光さん
(東京南麻布分とく山総料理長)
結城登美雄さん(民俗研究家)
中島恵理さん(持続可能な地域づくり研究家、環境省所属、経済産業省勤務)
阿部礼子さん(紫波みらい研究所)

コーディネーター 朝田くに子さん
(環境コーディネーター)

☆記念植樹 午後5時～5時30分
紫波中央駅前公共用地

☆食の彩典 午後6時～8時

町ゆかりの味と郷土芸能をお楽しみください。国指定無形民俗文化財「山屋の田植踊」が披露されます。**屋台村**／町の食材を使った料理や特産品をご堪能ください。

蔵元フェスティバル／南部杜氏が自信をもって仕込んだ全国の銘酒が味わえます。

ワインコーナー／海外からオーストラリアスタンソープのワインも登場

特産品の販売／紫あ波せおかき、胡堂のそば ほか
※食の彩典のチケットは、1組3,000円(入場券+フード&ドリンクチケット)です。役場総務課で販売中。

☆パネル展示ほか 終日ロビーにて
紫波みらい研究所「環境探検隊パネル展」
川を知る会による小繰舟模型展示
「紫波の食ナビ」の紹介



問合せ／総務文書室 ☎672-2111 内線3121

国定公園「栗駒山」の大パノラマを満喫しよう!

紫波町体育協会創立五十周年記念町民登山

今年の町民登山は、紫波山歩会の引率で須川岳(栗駒山)に登ります。標高1627.7mの栗駒山は、岩手、宮城、秋田県境にまたがるコニーデ型の休火山で、秋田県では大日岳と呼ばれています。山頂は眺望360度。夏は高山植物、高原、渓谷も見どころです。

期 日 7月24日(日)

定 員 70人(定員になり次第締め切り)

参加資格 町内に住所があり、小学4年生以上で登山に絶えられる健康な人。小学生は責任者同伴。

参加料 大人4,000円、小中学生3,000円(保険料、温泉入湯料込み)

申 込 7月4日(月)午後7時から総合体育館研修室にて受付を開始

問 合 せ 総合体育館 ☎676-2650 有線01-3151

中学校の教科書に、 ご意見をお寄せください

盛岡市・矢巾町・紫波町で組織する盛岡南地区教科用図書採択協議会では、平成18年度から21年度まで中学校で使用する教科用図書を採択するにあたり、保護者などの意見を反映するため、候補図書の展示を行います。

展示される教科用図書はどなたでも自由に閲覧することができます。採択に意見のある人は、その場に設置してある意見箱に投書をしてください。

期 間 6月17日(金)から7月6日(水)まで
(土・日除く) 午前9時～午後5時

展示場所 盛岡教科書センター(盛岡地区合同庁舎8階
盛岡市内丸11-1)

問合せ 紫波町教育委員会総務学事課学務室
TEL:672-3362

来日外国人の不法滞在・ 不法就労防止にご協力を

不法滞在外国人のほとんどは、日本で働くために在留期間が過ぎたまま滞在しています。近年多発している不法滞在外国人による犯罪の防止のためにも、外国人雇用に当たってはパスポートで在留資格をよく確認してください。(不法就労外国人を雇った事業主も処罰されます)よりよい国際交流推進のためご協力をお願いします。

関連情報をお持ちの人は 紫波警察署 671-0110へ

七夕かざりに 笹竹をどうぞ

桜町にある紫波地区普及情報センター(前農業改良普及所)では、敷地内の笹竹を伐採し、七夕かざりや農作業の支柱などに必要な人へお分けします。

伐採予定日 7月5日(火)

問 合 せ 盛岡農業改良普及センター
早川改良普及員
電話629-6727

おわびと訂正

しわネットおしらせ版6月号 保健・育児カレンダー中の、「6月20日(月)ポリオ接種」は誤りでした。次回のポリオは10月になります。訂正しておわびいたします。

ペットが迷子になったら

犬や猫などペットが迷子になったとき、そのままにしておくこと事故にあたり、保健所で処分されることもあります。飼主がわかるように首輪に登録番号や飼主の名前、住所などを必ず記してください。何も記入していない場合でも、早期に役場などに連絡することで見つけやすくなります。町では、6月から保護した犬や行方不明になった犬の情報をホームページ「ポータル紫波」に掲載しますので、捜索の手がかりにしてください。

迷子のときの連絡先

- 役場環境課 672-2111 (内線5531)
- 紫波警察署 671-0110
- 盛岡保健所 651-3111
- ポータル紫波 <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>

愛犬手帳を作りました

町では病気や困ったときの相談先が一目でわかり、予防接種などの記録ができる愛犬手帳を作成しました。

この手帳に犬の登録番号や特徴を記入しておくこと、もし迷子になったとき、見つけるのに役立つ情報を役場や保健所に的確に伝えられます。また、かかりつけにしている動物病院の連絡先やワクチン接種の記録などを記入し、犬の健康保持、病気予防に役立ててください。

犬の登録の際に役場環境課で随時交付しています。なお、この手帳は保険証ではありません。

保健所一覧表	連絡先	愛犬手帳	犬の登録	ハチ子君
紫波保健所 〒985-8501 紫波町西裏23-1 TEL:672-2111	紫波警察署 〒985-8501 紫波町西裏23-1 TEL:671-0110		種 別 性 別 生年月日 登録番号 (再交付) 体 色 犬 種 種 番 その他特徴	ハチ子君 シーズー 性別 生年月日 登録番号 (再交付) 体 色 犬 種 種 番 その他特徴
...	...	犬名: 紫波 理 住所: 紫波町西裏23-1 連絡先: 019-672-2111 【紫波町行政サービス課環境係】	種 別 性 別 生年月日 登録番号 (再交付) 体 色 犬 種 種 番 その他特徴	ハチ子君 シーズー 性別 生年月日 登録番号 (再交付) 体 色 犬 種 種 番 その他特徴

予防できる病気	狂犬病予防注射	ワクチン等の摂取記録
犬の健康を守るために、定期的な予防接種が重要です。	注射年月日 接種番号	ワクチン名 摂取年月日
...	H12年 6月 1日 H12-08001 H13年 6月 1日 H13-08001 H14年 7月 1日 H14-07001 H15年 8月 1日 H15-08001 H16年 9月 1日 H16-09001 H17年 4月 1日 H17-04001	...
...	...	フィラリアの薬 薬名 摂取年月日

愛犬手帳

とことん知りたい

紫波の スポット



八百年の時を越え、ふるさとに戻った蓮

五郎沼の古代蓮

泰衡非業の死、 首桶に供養の蓮

文治5年（1189年）、源頼朝は28万の兵を従え、陣ヶ岡蜂神社に陣をしいていました。そこへ義経追討の罪で斬殺された藤原泰衡の首が届けられました。その首は長くさらされた後、ひそかに藤原三代が眠る平泉の中尊寺金色堂に安置されました。そのときに泰衡と親戚関係にある樋爪氏の五郎沼に咲いていた蓮の花が首桶の中にとまげられたと言われています。

バイオ技術でよみがえり

昭和25年、金色堂遺体学術調査が行なわれ、泰衡の首桶から蓮の種子が発見されました。40年後バイオテクノロジーの技術を駆使して、長島時子恵泉女学園短大教授のチームが5年の歳月をかけて研究栽培、平成10年に開花、翌年中尊寺の池によみがえりました。

言い伝えのとおり「中尊寺の蓮のふるさは五郎沼である」との思いで、五郎沼薬師神社関係者の皆さんの熱意と、中尊寺千田孝信貫首のご好意で、平成14年五郎沼に株分けされ、翌年から7月に見事な花を咲かせています。



蓮の花は朝がいちばんきれいに咲いています。花の命は4日とか。



八百年の眠りから覚めて中尊寺によみがえった蓮が、7月ごろ五郎沼で花を咲かせます。



春の五郎沼は、水面に映る桜が美しい。

五郎沼

奥州藤原氏ゆかりの樋爪氏の館跡。春には湖面に映える鮮やかな桜、冬には白鳥飛来地として知られています。桜の植樹や白鳥への餌やりなどみんなに愛される憩いの場です。



五郎沼は、白鳥の飛来地として町民の憩いの場にもなっています。